

## 県育成極早生温州「肥のあけぼの」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

### 研究のねらい

本県は、極早生温州の栽培には恵まれた条件下にあり、早生温州の前段である10月中の極早生温州の生産を安定することは経営上重要である。このため、樹勢が強く、高品質で安定した収量が得られる完熟用オリジナル品種の育成を行った。

### 研究の成果

#### 1. 育成の経過

昭和58年5月に、楠本早生に川野なつだいだいの花粉を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生種。昭和60年から果樹研究所内および県内の適応試験地域で特性検定試験を実施し、個体N-10800選抜した。

#### 2. 品種の特性

##### (1) 樹性

樹姿は未結果期では立性傾向にあるが、結果期に入ると次第に開張し中間となる。樹勢は極早生温州のなかでは強い方に入る。枝梢はやや長く、伸長は比較的旺盛である。葉は興津早生より大きく、着葉数は多い。

##### (2) 結実性

生育初期の枝梢の伸長が旺盛なため、結実始めは他の極早生温州より遅れる傾向がある。結実期以降の着果性は良好で、樹勢が強く着葉数も多いため、隔年結果性は小さく単位容積当たりの収量は高い。

##### (3) 果実特性

果実の大きさは興津早生と同程度で玉揃いはよい。果形は偏円で果面は滑らかである。着色は9月上旬頃より始まり10月中旬頃には完全着色する。果皮色は濃厚で、じょうのう膜は極めて軟らかく果肉は柔軟である。糖度は比較的高く10月中旬頃には11～12度程度になる。クエン酸は10月中旬で1%程度になり、樹上での完熟により食味は良好となる。採収は10月中旬頃から行う。

#### 3. 栽培上の留意点

本種の特性を發揮するには、海岸域等の温暖な地帯での栽培が必要で、減酸の遅れる地域は適地として十分でない。また糖度が高く食味の良い果実を生産するには、土層が比較的に深く排水良好で、日当たりの良い傾斜地での栽培が望ましい。

表 1 樹体と花

項目 系統	樹姿	樹冠の 大きさ	樹勢	春梢の形態				葉の形態			花器	
				長さ	径	節間長	刺の多少	面積	長さ	幅	花重	子房の大きさ
				cm	mm	cm	cm	cm <sup>2</sup>	cm	cm	g	mm
肥のあけぼの	中	大	強9.6	12.8	3.2	1.9	有0.4	31.6	9.6	4.8	0.4	中 3.7
楠本早生	中	中	中8.4	8.1	2.8	1.4	無0.0	24.4	8.1	4.2	0.5	中 3.7
興津早生	中	中	中8.4	11.9	3.3	2.1	無0.0	29.8	9.4	4/6	0.5	中 3.9

表 2 果実の形態

項目 系統	果実の 外観	果形 指数	果実横 径cm	果実重 g	果皮10/7		果肉色 10/11	果面の 平滑度	果皮 厚mm	じょうの うづの硬 軟	着色始期	完着期
					着色	果皮色						
肥のあけぼの	偏円	138.1	6.29	97.0	8.6	9.1	9.5	2.0	3.2	軟	9月上	10月中
楠本早生	偏円	134.7	5.97	85.6	5.9	7.4	9.6	2.7	2.5	軟	9月上中	10月中下
興津早生	やや偏円	125.1	5.82	82.3	3.1	6.5	9.2	2.6	2.3	やや軟	9月上	10月下

表 3 果実の品質

品種	採収年月日	果実重g	糖度	クエン酸	甘味比
肥のあけぼの 興津早生	H1.10.16	110.3	11.5	0.74	16.9
	"	97.3	10.1	0.84	13.1
肥のあけぼの 興津早生	H2.10.12	123.3	11.0	0.81	15.1
	"	111.3	9.1	0.93	10.7
肥のあけぼの 興津早生	H3.10.15	118.8	13.1	1.11	13.5
	"	95.9	12.9	1.36	10.8
肥のあけぼの 興津早生	H4.10.14	91.7	12.2	1.05	12.5
	"	99.5	10.7	1.17	11.6
肥のあけぼの 興津早生	H5.10.08	94.7	11.6	1.18	11.0
	"	91.1	10.2	1.39	8.1



写真 1 肥のあけぼのの樹姿



写真 2 肥のあけぼのの結実状態